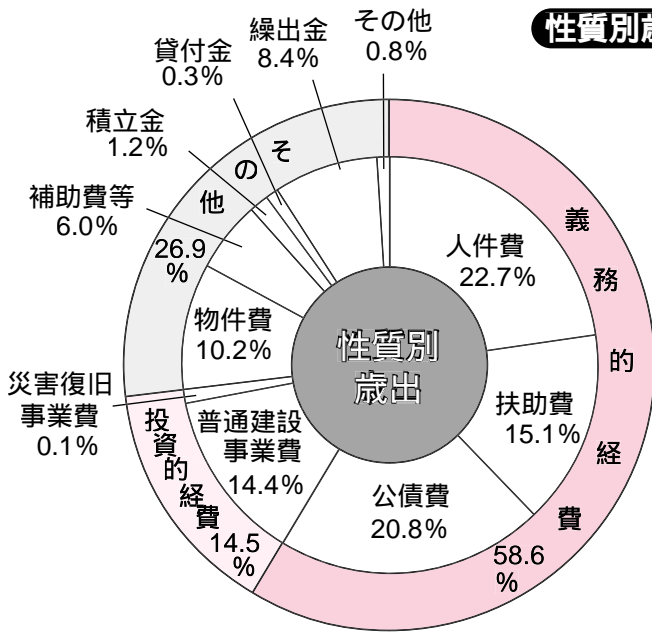


性質別歳出の内訳



義務的経費	113億 989万 5千円
人件費	43億 7,570万 8千円
扶助費	29億 1,370万 5千円
公債費	40億 2,048万 2千円
投資的経費	28億 118万 8千円
普通建設事業費	27億 7,748万 5千円
災害復旧事業費	2,370万 3千円
その他	51億 7,496万 2千円
物件費	19億 6,993万 1千円
補助費等	11億 5,224万 5千円
積立金	2億 3,510万 4千円
貸付金	4,837万円
繰出金	16億 2,600万 3千円
その他	1億 4,330万 9千円
計	192億 8,604万 5千円

市民の税負担は？

1人あたりの市税負担額 112,483円		(1世帯あたりの負担額 276,949円)	
固定資産税 62,409円 (153,657円)	市民税 40,310円 (99,249円)	たばこ税 7,654円 (18,847円)	軽自動車税 2,050円 (5,048円)
			その他 60円 (148円)

* () 内は1世帯あたりの負担額です。

平成16年3月31日現在の南国市人口50,498人、世帯数20,510世帯で計算したものです。

人権く共生の時代

38

人権教育シリーズ

高知市内に出かけた時、大きな声が耳に飛び込んできました。それは、交通事故などで肉親を亡くした子どもたちが、募金を訴える声でした。大切な存在の死という出来事乗り越え、必死に生きようとする子どもたちの力強い声に励まされたのと同時に、その深い悲しみを思うと胸が痛みました。

一方自らの手で命を終える方が増えていきます。厚生労働省は、全国の年間自殺者はここ数年、3万人を超えるという危機的な状況を伝えていきます。その背景には、地域社会の繋がりが薄れ、人間関係の希薄さが増していく中での孤独感が影響しているように感じます。そんな悲劇を繰り返さないためには、いま何が必要なのでしょう。

ある日、一人の女性と出会いました。その方は、「何か病気だと思っけれど、どこの病院に行っても、どの先生にかかっても原因が分からないんです。こんなに辛いのに」と訴えられました。ゆっくりとその方の話に耳を傾けてみると、数年前に家族を亡くし、その悲しみに暮れる間もなく、一生懸命に家庭を守り支えてこられた

「かけがえのない命を生きる」

そうです。そして、やっと落ち着ける状況になった時、今度はご自身の身体の不調に悩まされ始めたのだとおっしゃいました。

最近、少しずつ心の健康の大切さが叫ばれるようになってきました。心にたまった疲れは、色々な形でSOSの信号を出します。時には、肩こりや頭痛など、身体の症状として出てくる場合があります。しかし、まだまだ心の健康は身体の健康に比べて置き去りにされていることが多いのではないのでしょうか。

頑張りすぎていませんか。まずは、自分自身が心の叫びにそっと耳を傾けてみましょう。自分を大切にできることは、他者の存在をも大切に思える事に繋がります。人権を尊重しあえる社会とは、自分を大切にすることで、人と人との繋がりが(絆)を取り戻し、誰もが自分らしく生き生きとした人生を歩むことを支え合えることではないでしょうか。

少し立ち止まって考えてみませんか。あなたの心はお元気ですか？

お問い合わせは
人権広報委員会

880・6569まで

我がまちの名工3人

南国市技能功労者表彰

▶ 昨年11月22日、永年同一職業に従事し、優れた技能を社会発展のために役立て、功績のあった技能職者を顕彰する「平成16年度南国市技能功労者表彰式」が、グレース浜すしで行われました。
受賞者の皆さんをご紹介します。
(順不同)



建具技能士 / 昭和16年1月18日生まれ

昭和32年に見習工からこの仕事を始めました。今回このような栄を得ることとなって、ものづくりに携わる者にとっては大きな励みとなります。また、向上への意欲をかきたてるのを感じます。今後は、この賞を辱めることのないように、後進の育成と、自らの向上の志を持続しようと思います。



原 孝行さん
稲生

理容師 / 昭和18年11月10日生まれ



昭和34年に大阪に行き、師弟制度が残る厳しい時代でしたが、未熟者には良く指導してくれました。おかげさまで、生徒たちへの技術指導を行う傍ら、技術向上に努め、各競技会での受賞もでき、南国市に開業してから数々の表彰をいただくことができました。

私のモットーは「仕事を楽しんでいるか?」「品格のある技術を伝えたか?」であります。



岡林 康夫さん
(左右山)

金属加工作業工 / 昭和21年3月2日生まれ



銃作り40年、主に銃身一筋に頑張ってきました。技術水準が高まる中、銃身も新たな方式に移行したり、加工機械も新しくなるなど、軌道に乗るまでは先輩や同僚の方々と苦労しながらも乗り越えてきました。

神経を使う仕事ですが、それだけに完成の喜びがあります。今後も頑張ることに励みたいと思います。



森 榮一さん
(稲生)